



あなたと博物館

HIRATSUKA CITY MUSEUM

'96 6月号



寄贈品コーナー：平塚大空襲

会期：6月14日（金）～7月18日（木）

昭和20年7月16日から17日にかけ、B29爆撃機132機が実施したアメリカ軍による平塚大空襲は、一夜にして平塚を灰燼に帰します。投弾された焼夷弾は全部で44万7、716本に達し、その数は全国で一、二を争うものでした。昨年、この大空襲をテーマに特別展が開催され、期間中、2万4千人を超える市民の皆様に見ていただくことができました。この空襲を市民の皆様に今後とも長く記憶していただくため「平塚大空襲」を紹介いたします。

開館20周年記念シンポジウム

「すべてのまちに博物館を－高まる地域博物館への期待」

5月12日に、平塚市博物館の開館20周年を記念してシンポジウムが開催されました。会場には、博物館の行事によく参加されている方、ボランティアとして出入りしている方、他の博物館関係者、博物館学を学んでいる大学生など約50名の参加があり、熱心な討議が行われました。

パネラーの小川直之さん（國學院大学助教授）は、日本の博物館がますます多様化してきており、全国で6000の館の内、博物館法によらない館が半数を占める現状を紹介されました。そして、平塚市博物館の活動の特色は、教育普及型というよりは「地域研究方法論型」という点にあり、行事そのものが市民と一緒にになって調査研究していくしくみを作った点が評価できる、またその延長で地域博物館は大学と並び立つような学術研究の拠点にもなりうるとの見解を示されました。

林浩二さん（千葉県立中央博物館学芸員）は、現代の大きな傾向として情報の消費を楽しむという風潮が蔓延していることを指摘され、それに対して博物館は情報を生み出す場であり、それを生産したり発信したりする知的な楽しみを共有できる点に大きな教育的な意味があると話されました。また、博物館を拠点にして、地域の人々つながり合う交流の場が作られる意味にもふれられました。

渡辺保子さん（茅ヶ崎の博物館を考える会）は、茅ヶ崎市に地域博物館を作る運動の中で、「市民が活用する館」「学校教育と連携する館」「情報センターとしての館」「環境問題に取り組む館」などの理念が生まれ、茅ヶ崎のアイデンティティーを理解し、よりよい地域を作るための素材を蓄積する場として博物館建設を求めていきたいと話されました。

討議の中では、地域意識が希薄になる社会状況の中で、地域博物館という考え方があるのかという点が話題になり、パネラーからは「広域行政論が取りざたされているが、社会教育施設は自転車で動ける範囲にあって初めて市民との結びつきが生まれるのではないか」「ただ住んでいるだけでは自分の町にはならない。歩いたり調べたりして、自分の町にしていく手がかりを博物館は多く与えてくれる」「平塚市博物館のような活動スタイルの地域博物館が来世紀のあるべき姿を先取りしているのではないか」などの意見が出され、地域にこだわった博物館のあり方は大きな意味を持つことが再確認されました。

また、会場からも発言があり、平塚市博物館について、「もっと来館者を増やす努力をすべき」「活動の部屋を多くして欲しい」「学校との連携を強めて欲しい」などの具体的な要望も出されました。

地域博物館としての20年を振り返り、新しい発展をめざすきっかけとして、大きな意味のあるシンポジウムでした。



平塚の考古学の動向Ⅱ —考古学入門講座に向けて—

■古墳時代（西暦3世紀後半～709年）

古墳時代を象徴する古墳は市内に幾つかあります。三角縁神獣鏡を出土した4世紀後半の真土大塚山古墳は南関東を代表する前期古墳として全国的に知られています。鏡は京都府の椿井大塚山古墳から出土した鏡と同じものです。大和朝廷との関係が指摘されてきました。塚越古墳は市内に存在する唯一の前方後円墳で、5世紀後半の時期と考えられていました。一方、古墳の一形態としての横穴墓も存在します。高根横穴墓群・根坂間横穴墓群・万田八重窓横穴墓群・万田宮ノ入横穴墓群・万田熊ノ台横穴墓群などは6世紀後半から8世紀初頭に造られた家族墓です。墳墓に対しての集落調査の事例は意外と少なく、王子ノ台遺跡の前期の集落、南原C遺跡の中期から後期の集落跡があります。特に、南原C遺跡は祭祀遺跡として知られています。

しかし、ここ10年の調査により、この時代の様相が分かりつつあります。墳墓の調査では、權現堂遺跡では前期の方形周溝墓から、この時期の土地利用の状況が、根坂間横穴墓群・城山横穴墓群では市内の横穴墓の変遷過程が明らかにされるつつあります。集落の調査では、台地での桜烟遺跡・原口遺跡・赤坂遺跡、低地での中里B遺跡・田村天神前遺跡・新町遺跡・七ノ域遺跡などが行われています。台地では前期から後期の集落跡が、低地では後期の集落跡が主体になるようです。この状況をどのように理解するかです。鉄製農具の普及は一般に6世紀ですので、この時期を境にして台地から広大な低地の開拓・開発に目が向けられたと考えられます。古墳の被葬者は地域の開拓者といえます。

■奈良・平安時代（西暦710～1191年）

この時代の最初の古代集落の調査は昭和52年の神明久保遺跡が最初となります。以後、中原上宿遺跡・向原遺跡・諏訪前遺跡・四之宮下郷遺跡と大規模な調査が続きます。この段階での全体的な傾向として、平塚の古代は從来考えていたより以上の大規模な集落が展開していたが分かりました。つまり、一般集落としての性格より、官衙（かんが）的色彩が強いことが明らかにされたことです。

その後の六ノ域遺跡・高林寺遺跡・稻荷前A遺跡・稻荷前B遺跡・天神前遺跡・七ノ域遺跡・山王A遺跡・山王B遺跡・諏訪前A遺跡・諏訪前B遺跡の一連の調査成果により、『和名類聚抄』に記載された「府大住」は四之宮周辺一体に存在する可能性が非常に強くなっています。特に、稻荷前A遺跡から出土した墨書土器「国厨」「鼓」は、従来指摘されてきた相模國三邊説の根拠では理解できない状況になってきています。初期国府は平塚市に置かれたものと考えられます。

一方、相模國域外の遺跡の状況は国府域に比べ、建物の集中はみられず、散在的な傾向が見られます。ただし、10世紀以後の集落の景観は良く分からぬのが状況です。

■今後の展望

旧石器時代から奈良・平安時代の動向を見てきましたが、日進月歩の觀があります。今後の調査により、さらに新しい事実が発見されるものと思います。

鎌倉時代から江戸時代の遺跡は、部分的に調査が行われていますが、実体の解明にはほど遠いものがあります。歴史的に見ても重要な位置を占めているだけに期待できるものがあります。

平塚市という行政区画・地域にあって、地域を支えてきたのは、地域に生きた人々です。文化財は地域を支えてきた「生き証人」といえます。「地域の文化財は地域で守る」ことが、明日への平塚につながるものと思います。



◆地域の開拓者の墓（万田熊ノ台横穴墓群）◆

博物館カレンダー

6月の行事予定

1	土	○こども観察会「コアジサシを見よう」 (相模川田村付近) ○考古学入門「縄文時代」
2	日	民俗探訪会(須賀~馬入)
4	火	燃蒸休館<至: 13日(木)>
9	日	相模川の生き立ちを探る会 「煤ヶ谷石の産地」(清川村別所)
13	木	石仏を調べる会
15	土	地質調査会(館内) 平塚の空襲と戦災を記録する会 ○考古学入門「弥生時代」 天体観察会「星座を覚えよう」
16	日	古代遺跡を探す会
19	水	裏打ちの会 地質調査会(館内)
22	土	○漂着物を拾う会(平塚海岸) 古文書講読会
23	日	地質調査会(館内)
27	木	石仏を調べる会
29	土	○考古学入門「古墳時代」
30	日	開館します

7月の行事予定

3	水	地質調査会(館内)
6	土	○考古学入門「奈良・平安時代」
7	日	○自然観察会「山の生きものの観察」(高麗山) 民俗探訪会「八王子道を歩く」(四之宮) 地質調査会(館内)
11	木	石仏を調べる会
13	土	○漂着物を拾う会(平塚海岸) 地質調査会(館内) 古文書講読会 平塚の空襲と戦災を記録する会
14	日	古代遺跡を探す会
17	水	裏打ちの会
20	土	○特別展「動く大地展」(至: 9月15日)
21	日	相模川の生き立ちを探る会(富士山)
25	木	○自由研究相談会 ○星を見る会「夏の星空に親しもう」 石仏を調べる会
26	金	○自然観察ゼミナール「セミのぬけがら調べ」
27	土	古文書講読会
30	火	○自然観察入門講座「貝化石を調べよう」
31	水	特別展会期中につき、開館します。 ○自然観察入門講座「貝化石を調べよう」

◎は参加自由 ○は申込制 他は会員制

●特別展

「開館20周年記念展」: 6月2日(日)まで
「動く大地」: 7月20日(土)~9月15日(日)

●寄贈品コーナー

「自然部門新資料展」: 6月2日(日)まで
「平塚大空襲」: 6月14日(金)~7月18日(木)
「相模川の生き立ちを探る会の活動紹介」
: 7月20日(土)~9月15日(日)

●プラネタリウム一般投影

~宮沢賢治生誕100年記念リバイバルシリーズ~
①「双子の星」: 6月2日(日)まで
②「よだかの星」: 6月15日(土)~7月7日(日)
「風の神話」: 7月13日(土)~9月1日(日)
土・日曜日の11時と14時に投影。観覧料は100円。

自然観察会

梅雨の山で宮まれている生きものの暮らしを見ます。
日時: 7月7日(日) 13:30~16:00
場所: 高麗山(大磯町高麗 高来神社境内に集合)
申込: 往復はがきに住所、氏名、年齢を記入し、博物館
自然観察会係へ。
〆切: 6月20日(木)

漂着物を拾う会

海岸に打上げられた動植物・人工物を集めて調べます。
日時: 6月22日(土) 9:30~11:00
場所: 平塚海岸(花水川橋平塚側ともと記念碑前集合)
参加: 自由

博物館の情報番組がFM湘南ナバサ(78.3MHz)で始まる!!

ボランティア団体ナバサクラブが製作している「ふれあいステージ」という午後3時からの1時間番組の中で、毎月曜日、3時40分頃から8分程博物館の情報をお伝えします。博物館の行事案内をはじめ、季節に応じた自然や伝統行事など盛りだくさんの話題を、博物館職員総出演でお茶の間や車の中にお届けします。

全館燃蒸に伴う休館についてのお知らせ

下記の期間休館します。

6月4日(火) ~
6月13日(木)

あなたと博物館

21巻3号 遷232号 03000 発行 平塚市博物館

〒254 平塚市浅間町12-41 TEL:0463(33)5111 FAX:0463(31)3949